

作成日：2021年 9月29日

改訂日：2022年 4月 1日

## 安全データシート

整理番号：403

## 1. 製品及び会社情報

製品名 : セハノールHC 手指消毒液  
販売名 : 薬用ハンドスプレーAH  
推奨用途 : 手指・皮膚の洗浄・消毒（指定医薬部外品 外皮消毒剤）  
会社名 : 株式会社セハージャパン  
住所 : 〒110-0016 東京都台東区台東1-32-8  
担当部門 : 営業部  
電話 : 03-3839-7531  
ファックス : 03-3839-7532  
緊急連絡先 : 同上

## 2. 危険有害性の要約

## GHS分類

## 物理化学的危険性

引火性液体 : 区分3

## 健康に対する有害性

眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性 : 区分2B

発がん性 : 区分1A

生殖毒性 : 区分1A

特定標的臓器毒性（単回ばく露） : 区分3（気道刺激性、麻酔作用）

特定標的臓器毒性（反復ばく露） : 区分1（肝臓）、区分2（中枢神経系）

## 環境に対する有害性

水生環境有害性 短期（急性） : 分類できない

水生環境有害性 長期（慢性） : 分類できない

上記に記載がない危険有害性は、区分に該当しないか分類できない

## GHSラベル要素

絵表示又はシンボル :



注意喚起語 : 危険

危険有害性情報 : 引火性液体及び蒸気

眼刺激

呼吸器への刺激のおそれ

眠気又はめまいのおそれ

発がんのおそれ

生殖能又は胎児への悪影響のおそれ

長期にわたる、又は反復ばく露による肝臓の障害

長期にわたる、又は反復ばく露による中枢神経系の障害のおそれ

## 注意書き

『安全対策』

: すべての安全注意を読み理解するまで取り扱わないこと。

熱、高温のもの、火花、裸火のような着火源から遠ざけること。禁煙。

容器を密閉しておくこと。  
静電気放電に対する予防措置を講ずること。  
ミスト、蒸気、スプレーを吸入しないこと。  
この製品を使用するときに、飲食又は喫煙をしないこと。  
屋外又は換気の良い場所でのみ使用すること。  
必要に応じて保護衣、保護眼鏡、保護面を着用すること。

#### 『応急措置』

##### 皮膚（又は髪）に付着した場合

： 異常を感じた場合は、皮膚を水又はシャワーで洗い、必要に応じて医師の診察、手当てを受けること。

吸入した場合： 空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。

眼に入った場合： 水で数分間注意深く洗うこと。次にコンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。

##### ばく露又はばく露の懸念がある場合

： 医師の診察、手当てを受けること。気分が悪いときは医師に連絡すること。気分が悪いときは医師の診察、手当てを受けること。

眼の刺激が続く場合： 医師の診察、手当てを受けること。

火災の場合： 消火するために適切な消火剤を使用すること。

『保管』： 換気の良い場所で保管すること。容器を密閉しておくこと。涼しいところに置くこと。

『廃棄』： 内容物、容器は法令に従い廃棄すること。

他の危険有害性： 情報なし

---

### 3. 組成及び成分情報

単一製品・混合物の区別： 混合物

成分： ベンザルコニウム塩化物 0.05w/v%  
エタノール（CAS No.64-17-5） 55.5w/w%  
水、濃グリセリン、ヒアルロン酸ナトリウム（2）

---

### 4. 応急措置

吸入した場合： 空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。気分が悪いときは医師に連絡すること。

皮膚に付着した場合： 異常を感じた場合は、皮膚を水又はシャワーで洗うこと。必要に応じて医師の診察、手当てを受けること。

眼に入った場合： 水で数分間注意深く洗うこと。次に、コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。眼の刺激が続く場合： 医師の診察、手当てを受けること。

飲み込んだ場合： 口をすすぐこと。医師に連絡すること。

#### 急性症状及び遅発性症状の最も重要な徴候症状

吸入： 咳、頭痛、疲労感、し眠。

皮膚： 皮膚の乾燥。

眼： 発赤、痛み、灼熱感。

経口摂取： 灼熱感、頭痛、錯乱、めまい、意識喪失。

---

### 5. 火災時の措置

消火剤： 水噴霧、対アルコール性泡消火剤、粉末消火剤、炭酸ガス、乾燥砂類

使ってはならない消火剤： 棒状放水

特有の危険有害性： 加熱により容器が爆発するおそれがある。引火性液体及び蒸気消火後再び発火するおそれがある。火災時に刺激性、腐食性及び毒性のガスを発生するおそれがある。

特有の消火方法： 危険でなければ火災区域から容器を移動する。容器が熱に晒されているときは、移さない。安全に対処できるならば着火源を除去すること。

消火を行う者の保護 : 適切な空気呼吸器、防護服（耐熱性）を着用する。

---

## 6. 漏出時の措置

### 人体に対する注意事項、保護具及び緊急措置

: すべての着火源を取り除く。直ちに、すべての方向に適切な距離を漏洩区域として隔離する。  
関係者以外の立入りを禁止する。密閉された場所に立入る前に換気する。

環境に対する注意事項 : 環境中に放出してはならない。

### 封じ込め及び浄化の方法・機材

: 回収・中和：不活性材料（例えば、乾燥砂又は土等）で流出物を吸収して、化学品廃棄容器に入れる。封じ込め及び浄化方法・機材：危険でなければ漏れを止める。

二次災害防止策 : すべての発火源を速やかに取り除く（近傍での喫煙、火花や火炎の禁止）。排水溝、下水溝、地下室あるいは閉鎖場所への流入を防ぐ。

---

## 7. 取扱い及び保管上の注意

### 取扱い

技術的対策 : 必要に応じて『8. ばく露防止及び保護措置』に記載の設備対策を行い、保護具を着用する。

局所排気・全体換気 : 必要に応じて『8. ばく露防止及び保護措置』に記載の局所排気、全体換気を行う。

安全取扱い注意事項 : 熱、高温のもの、火花、裸火のような着火源から遠ざけること。禁煙。

すべての安全注意を読み理解するまで取り扱わないこと。

この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしないこと。

屋外又は換気の良い場所でのみ使用すること。

ミスト、蒸気、スプレーを吸入しないこと。

眼に入れないこと。

接触回避 : 『10. 安定性及び反応性』を参照。

### 保管

安全な保管条件 : 容器を密閉して冷乾所にて保存すること。

熱、高温のもの、火花、裸火のような着火源から離して保管すること。禁煙。

---

## 8. ばく露防止及び保護措置

管理濃度 : 未設定

許容濃度 : 未設定

設備対策 : この物質を貯蔵ないし取扱う作業場には、必要に応じて洗眼器と安全シャワーを設置すること。

ばく露を防止するため、必要に応じて装置の密閉化又は防爆タイプの局所排気装置を設置すること。

### 保護具

呼吸用保護具 : 必要に応じて適切な呼吸器保護具を着用すること。

手の保護具 : 必要に応じて適切な保護手袋を着用すること。

眼の保護具 : 必要に応じて適切な眼の保護具を着用すること。

皮膚及び身体の保護具 : 必要に応じて適切な保護衣を着用すること。

---

## 9. 物理的及び化学的性質（エタノール（事業法アルコール）として）

物理状態 : 液体

色 : 無色透明

臭い : 特有の香気

臭いのしきい（閾）値 : 情報なし

pH : 6.0~8.0

融点・凝固点 : 情報なし

沸点、初留点及び沸騰範囲	: 情報なし
引火点	: 23.2℃ (タグ密閉式)
蒸発速度 (酢酸ブチル= 1)	: 情報なし
燃焼性 (固体、気体)	: 情報なし
燃焼又は爆発範囲	: 情報なし
蒸気圧	: 情報なし
蒸気密度	: 情報なし
比重	: 0.900~0.910 (15℃)
溶解度	: 情報なし
n-オクタノール/水分配係数	: 情報なし
自然発火温度	: 情報なし
分解温度	: 情報なし
粘度 (粘性率)	: 情報なし

---

## 10. 安定性及び反応性

反応性	: 法規制に従った保管及び取扱においては安定と考えられる。
化学的安定性	: 法規制に従った保管及び取扱においては安定と考えられる。
危険有害反応可能性	: 情報なし
避けるべき条件	: 情報なし
混触危険物質	: 情報なし
危険有害な分解生成物	: 情報なし

---

## 11. 有害性情報

急性毒性	
経口	: データ不足のため分類できない。
経皮	: データ不足のため分類できない。
吸入 (ガス)	: GHSの定義における液体である。
吸入 (蒸気)	: データ不足のため分類できない。
吸入 (粉じん及びミスト)	: データ不足のため分類できない。
皮膚腐食性/刺激性	: データ不足のため分類できない。
眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性	: 原料データより、区分2 Bに分類した。
呼吸器感作性	: データ不足のため分類できない。
皮膚感作性	: データ不足のため分類できない。
生殖細胞変異原性	: データ不足のため分類できない。
発がん性	: 原料データより、区分1 Aに分類した。
生殖毒性	: 原料データより、区分1 Aに分類した。
特定標的臓器毒性	
単回ばく露	: 原料データより、区分3 (気道刺激性、麻酔作用) に分類した。
反復ばく露	: 原料データより、区分1 (肝臓)、区分2 (中枢神経系) に分類した。
誤えん有害性	: データ不足のため分類できない。

---

## 12. 環境影響情報

生態毒性	: 知見なし
残留性・分解性	: 知見なし
生体蓄積性	: 知見なし
土壤中の移動性	: 知見なし
オゾン層への有害性	: 知見なし

---

### 13. 廃棄上の注意

- 残余廃棄物 : 廃棄の前に、可能な限り無害化、安定化及び中和等の処理を行って危険有害性のレベルを低い状態にする。廃棄においては、関連法規並びに地方自治体の基準に従うこと。
- 汚染容器及び包装 : 容器は清浄にしてリサイクルするか、関連法規並びに地方自治体の基準に従って適切な処分を行う。空容器を廃棄する場合は、内容物を完全に除去すること。

---

### 14. 輸送上の注意

#### 国際規制

- 国連番号 : 1170
- 国連品名 : エタノール
- 国連危険有害性クラス : 3 (引火性液体)
- 容器等級 : II

#### 国内規制

- 海上規制情報 : 船舶安全法の規定に従う。
- 航空規制情報 : 航空法の規定に従う。
- 陸上規制情報 : 消防法の規定に従う。
- 特別安全対策 : 輸送に際しては、直射日光を避け、容器の破損、腐食、漏れのないように積み込み、荷崩れの防止を確実に行う。重量物を上積みしない。

---

### 15. 適用法令

法規制情報は作成年月日時点に基づいて記載されております。事業場において記載するに当たっては、最新情報を確認してください。

- 労働安全衛生法 : 危険物 引火性の物 (施行令別表第1)  
名称等を表示すべき危険物及び有害物 (法第57条、施行令第18条別表第9)  
【61 エタノール】  
名称等を通知すべき危険物及び有害物 (法第57条の2、施行令第18条の2別表第9)  
【61 エタノール】
- 消防法 : 該当せず
- 化学物質排出把握管理促進法 : 該当せず
- 毒物及び劇物取締法 : 該当せず
- 航空法 : 引火性液体 (施行規則第194条)
- 船舶安全法 : 引火性液体類 (危規則第2条)
- 薬機法 : 指定医薬部外品 外皮消毒剤

---

### 16. その他の情報

- 参考文献 : 各原料SDS  
JIS Z 7252:2019 GHSに基づく化学品の分類方法  
JIS Z 7253:2020 GHSに基づく化学品の危険有害性情報の伝達方法－ラベル, 作業場内の表示及び安全データシート (SDS)  
化学品の分類及び表示に関する世界調和システム (GHS) 改訂第6版  
GHS混合物分類判定システム (経済産業省)  
事業者向けGHS分類ガイダンス (令和元年度改訂版 (Ver2.0)) (経済産業省)  
GHS対応モデルSDS－エタノール (職場のあんぜんサイト)
- 記載内容の取扱い : 記載内容は現時点で入手できた資料や情報に基づいて作成しておりますが、すべての資料や文献を網羅したわけではなく、情報の正確性、完全性を保証するものではありません。また、新しい知見の発表や従来説の訂正により内容に変更が生じます。重要な決定等にご利用される場合は、出典等を良く検討されるか、試験によって確かめられることをお勧めします。なお、含有量、物理化学的性質等の数値は保証値ではありません。また、注意事項は通常的な取扱を対象としたもので、特殊な取扱の場合には、この点にご配慮をお願いします。